

1. 開催概要

展覧会名	特別展「北京故宮博物院 200 選」		
会 期	平成 24 年 1 月 2 日～2 月 19 日		
開催 施設名	東京国立博物館 平成館	入場者数	258,252 人
(開催概要)			
<p>中国・故宮博物院の全面的協力のもと、日中国交正常化 40 周年記念として、また東京国立博物館の創立 140 周年を記念して開催した本展では 97 件の 1 級文物を含む絵画、書跡、青銅器、玉器、陶磁器、漆工、染織など歴代皇帝の審美眼が反映された宮廷コレクション 254 件を展示。その質・量とも「空前絶後」と高い評価を得、特に中国の国宝中の国宝といわれる「清明上河図」（北宋時代）の海外初出品が国内外で大きな話題となった。</p> <p>約 26 万人の来場者の中には中国人も多く見られ、日中の人々がともに中国文化の精髓に列をなし、また感心しながら見入っていた。本展は日中間の友好交流を促進し、日中交流史において「歴史に刻まれる」展覧会となったといえる。</p>			

2. 補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

<p>1, 展示作品の質・量の充実</p> <p>出品された 254 件の作品のうち 97 件が 1 級文物という従来中国展にない高水準の展覧会であったため、作品評価額は高額にのぼった。従来であれば保険料負担の重さゆえに開催が難しかった展覧会であるが、本補償制度の適用を受けた事で開催が実現し、多くの人々に対してこれまでにない質と内容で中国を代表する博物館・故宮博物院の名品をじっくり鑑賞する機会を提供することができた。中でも門外不出の品といわれた「清明上河図」については、当初は中国側から「出品が難しい」と言われていたが、本制度が適用されたことで中国側の理解も深まり、その出品の実現に対し、きわめて高い効果が発揮された。さらに、北京故宮博物院でもこれまでに一度も展示されてこなかった「康熙帝南巡図巻」（1 級文物）をはじめとする名品も 10 数点含まれ、これによって中国国内においてでさえ鑑賞が難しい世界的名画を、我が国において鑑賞する機会の提供ができた。</p> <p>2, 教育普及活動等の充実</p> <p>本制度の活用の一環として、本展開催期間中には「清明上河図」をテーマにしたシンポジウムや各種講演会を開催し、専門家のみならず広く一般の人々に対し中国美術の学術的な意義を紹介することができた。</p>
--

●国際シンポジウム 特別展「北京故宮博物院 200 選」開催記念国際シンポジウム「『清明上河図』の魅力に迫る—東アジア文化史のなかの『清明上河図』」

日程：2012 年 1 月 7 日（土）10:00～16:30

会場：平成館-大講堂

出席者：湊信幸（東京国立博物館客員研究員、元副館長）、伊原弘（城西国際大学講師）、高村雅彦（法政大学教授）、板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所准教授）、陳韻如（台北・故宮博物院書画処副研究員）、余輝（故宮博物院研究員）、曹星原（カナダ・ブリティッシュコロンビア大学教授）、塚本麿充（東京国立博物館研究員）、マシュー・マッケルウェイ（Matthew McKelway）（コロンビア大学准教授）ら。

参加者人数：323 人

●記念講演会 「清朝の礼制文化」

日程：2012 年 1 月 8 日（日）13:30 ～ 15:00

会場：平成館-大講堂

講師：猪熊兼樹（東京国立博物館貸与特別観覧室主任研究員）

参加者人数：240 人

●記念講演会 乾隆帝の書画鑑賞

日程：2012 年 1 月 28 日（土）13:30 ～ 15:00

会場：平成館-大講堂

講師：塚本麿充（東京国立博物館東洋室研究員）

参加者人数：263 人

さらに教育普及プログラムとして、1 都 3 県（神奈川・埼玉・千葉）の小中学校を対象に本展の内容をわかりやすく解説したジュニアガイドを作成し無償で配布。若年層の美術鑑賞の支援活動として多くの学校から高い評価を受けた。あわせて学校団体での観覧促進のため、小・中・高の教員向けに特別内覧会を実施し、好評を得た。

教員特別内覧会：2011 年 1 月 22 日（日）の 10:00 と 11:00 に 2 回実施。各回、特別展担当研究員による展覧会ガイダンス（30 分間）のあと、特別展の鑑賞。参加教員数：288 名。

その後の学校団体の鑑賞教育に関しては、東京国立博物館で行っているスクールプログラムを受けた 23 校 808 名（小学校 2 校 135 名・中学校 15 校 527 名・高校 5 校 132 名・大学 1 校 14 名）に対し、特別展観覧案内を実施した。

3. 事故の有無・安全管理に関する事項等（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

細心の注意を払って梱包・輸送・展示・撤収作業に臨み、また会場造作においても作品の保全を第一に考慮した。

また会期中「清明上河図」展示による混雑等があったが、混雑具合に応じて適宜できる限り最適な誘導方法を検討・実施した。

軽微な事故やヒヤリハット事例を含む事故は全く無かった。

4. 紹介事例・今後の改善点等

1, 本補償制度の発足に際して、中国を代表する国宝「清明上河図」の海外初出品が実現したことは、「広く国民にすぐれた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の趣旨にたいへんよく合致したものであったと思う。

2, 一方で、「清明上河図」の人氣が予想以上に過熱したことの裏返しに、展示期間中は連日鑑賞を待つ長い行列が出来た(入場規制:最大50分 清明上河図の鑑賞には最終日に300分待ち)。そうした状況に対して、雨風をしのぐテントの設置や、会場内の導線の工夫、開館時間の柔軟運用、運営スタッフの増強、混雑状況の広報(ハローダイヤルや携帯サイトで待ち時間をリアルタイム速報)など、主催者としてできる限りの改善を試みた。しかし、この作品には多数の個性豊かな人物がミリ単位で描き込まれていたことから、観覧者は作品がほぼ平置き(中国側との交渉の結果、正確には10°の傾斜台に展示)されたケースに張り付く状態でそれを鑑賞。作品の特質上、この状態を変えることはできなかった。その結果、観覧者の足は止まり、次に続く方々の待ち時間を十分に解消することはできなかった。当然のこととして主催者は、作品の安全性を確保した上で、より見やすく、観覧者の動線の確保を考慮した展示法(作品を起こし、もう少し高い位置に展示)を事前に中国側に提案し、許可を求めていたが、中国側からの了解は得られず、結果として中国側から提示された作品の展示条件に従うしかなかった。

今後、このような特殊な作品の公開に際しては、事前に混雑の程度を詳細にシュミレーションし、より具体的な対策を関係者間で協議しておくことは言うまでもないが、さまざまな問題をクリアーした上で、例えば、日時指定の前売り券や整理券の発行等も視野に入れながら観覧者の鑑賞環境の改善のためにさらなる努力を続けていきたいと考えている。

3, 補償制度適用の事実については、朝日新聞紙面で報じたほか、本展図録でも紹介し、制度の周知に努めた。

5. 展覧会の収支決算書

主催者名 東京国立博物館、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション

(収入)		(支出)		単位：円
展覧会収入・その他収入	517,971,564	企画準備等基本経費 注)	222,458,613	
共催者負担	14,789,776	設営・運営等会場関係経費	310,302,727	
収入総額	532,761,340	支出総額	532,761,340	

注) 美術品保険料は補償制度の導入により、当初想定額よりも約3,810万円、軽減された。